

子ども環境ラボ レポート

vol.19

街の中の「森のようちえん」

～地域の資源を活かして、とことん遊びつくす～

2022年 4月 15日 (金) 19:00～20:45

講師: 関山 隆一 氏

Zoomオンライン配信 申込者 38名

キーワード 見守る保育 地域資源 木育 持続可能な社会

■はじめに

ニュージーランドの国立公園でのガイドの仕事が自然体験の始まり。レイチェル・カーソンの「・・・幼い子ども時代は、この土壌を耕す時です」という言葉に導かれて母国でもあなキッズ自然楽校を設立。子どもたちに対する実践、持続可能な社会づくり、を二つの柱として取り組んでいる。

(もあな保育園の紹介映像から) 横浜市都筑区の園庭のない保育園。歩いてすぐのところに都市計画で実現された緑道ネットワークがある。ひとりひとりの子どもに寄り添う、スタッフも毎日がチャレンジ、想像以上に遊ぶ子どもを見て親も育つ。

もあなキッズ自然楽校

法人が提供する「児童福祉の法人事業部」

この法人は、創設以来しながら主体的に行動することができ「未来を創る子ども達の育成」。

子どもたちを中心とした活動を通して自然環境や社会問題を受け、持続可能な社会の構築に寄与することを目的とする。



■森のようちえんはどこでも実践できる

・「森のようちえん」とは、人間が本来持っている自然や地球とのつながりを大切にしたい保育実践のこと。デンマーク発祥。

・自然環境だけでなく人や文化も子どもを育む自然の一部。どの場所にも地域資源はあり、森のようちえんは実践できる。

・見守る保育が大切。子どもは生まれながらに困っている子を助けるし、棒を持って遊びたくなるもの。

・「木育」× 森のようちえん。日本の豊かな森林資源を使う。オリジナルの寄木の食器、古民家部材、ペレットストーブなど地産材の活用。



■持続可能な社会のために保育園ができること

・100年先を見つめる保育園プロジェクト(メープル保育園)を神奈川県林業、製材、木工、工務店、設計者とチームで実践。

・これまでもあなでやってきた8つの項目。

・「地域に根差した保育園(大磯編)」を大磯町にプレゼン。子育て環境の充実した未来のまちの姿を、まだないものも含めて描いた。

・保育園 × コワーキングスペースとして、アフターコロナに必要な地域の新しいプラットフォームとしてライフスタイルを提案。

・熊沢酒造@湘南の企業主導型保育施設。企業のコンセプトに共感し、もあなもそこに貢献できること。

・園庭がない保育園の外にどんどん出かけていき、まちの人に出会う。

地域に根差した保育園(大磯編)



■地域から切り離された保育園から地域に根差した保育園へ

・地域資源をみなおす(地域のつながりなおし)

・問い直しの姿勢(普段のあたりまえを見直してみる)

・保育を面白がる(離職問題がある。保育の仕事は楽しく価値がある)

講師紹介



関山 隆一 氏

NPO法人もあなキッズ自然楽校 理事長

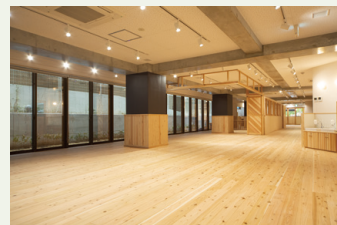
NPO法人 森のようちえん

全国ネットワーク連盟 副理事長

1971年神奈川県。1998年ニュージーランドに渡り国立公園にて現地ガイドとして働く。その後パタゴニア日本支社を経由し、2004年に帰国後アウトドアオペレーターの事業を立ち上げ、2007年NPOもあなキッズ自然楽校設立。2009年に森のようちえんスタイルの保育園を開園。現在神奈川県内に6つの園と1学童保育施設を運営。0歳児から小学生までの自然体験活動を実践している。



森のようちえんの三つの特徴
・difference(自然環境、地域、人、価値の違い、無二の世界)
・creativity(子どもの創造性の豊かさ、野外の豊かさ)
・resilience(逆境を跳ね返す力、自然体験の中では子どもが本来持っている力が出てくる)



もあな保育園の地産材の木を使った室内。100年先を見つめるプロジェクトとして8つの項目(地産のオーガニック食材の給食、地産木材、オーガニックコットンの園服、地域の人との協働、自然エネルギー電力、非石油由来のインク、再生紙、フェアな商品の利用)を実践している。

質問コーナー

■森のようちえんの立地について。どんな場所でも地域資源はある。たとえば墨田区に行くと、公園があり荒川がある。造園設計により多種多様な植物が植えられた都市公園はとても有効。下町としての文化も有益。

■木質化の度合いについて。床や壁は無垢材。食器は無垢材に食洗機も使えるナノセルロースという仕上げ。

■子どもたちの1日の過ごし方について。0歳から小さな合羽を来て野外へ行く。乳児は11時過ぎくらいまで。幼児は3時くらいまで、生活のほとんどの時間を外で過ごす。週2回外で食事をする。食事はそれぞれのタイミングで好きな時にとる。遊びこむ時間をしっかりとすることが大切。状況判断で遊びの時間を長くすることもある。また、月2回くらい公共交通機関を使って遠足に行く。いろいろな人に出会えるのがよい。

■森のようちえんを普及したいが保育形態としてどれが適切か。→認可小規模型は安価にできる点が良い。補助金に依存したくないが、面白いことはやりたい。質の向上を目指すメリットもある。活気が減ってきた商店街の一面などポテンシャルがある。企業主導型はローカル企業がコラボレーションによって面白いことが広がる相手かどうかポイント。企業のコンセプトに共感し、自分たちもそれに貢献できること。保育園や社会の姿をおもしろく「描ける」かどうかを大事にしている。

■園庭が持てるとしたらどんな要素を保証したいか。→ファイヤープレイスをつくる。都市公園は火だけが唯一使えない。デンマークではどこにもファイヤープレイスがあった。一日中火のそばにいて、子どもを見ていたい。

■川原のたんぼぼは摘んでもよいが、園庭の椿は摘んではだめなのか、自分たちもわからなくなった。→答えはない。話し合うプロセスが大事。生き物にたいする殺生の感覚はみな違う。→年長さんに考えてもらうことにしました。(保育士・墨田区)

■墨田区は電車・バスが多くワンウェイのコースがたくさんつくれ、園を中心に領域が広がる。お相撲さん、神社いろいろな資源がある。地方に行くとない、と言われることがあるが、なにもない街はない。